

第 2 章

解説(QA)編

「協働による防災訓練事例」

電話が通じない！こんなとき どうやって連絡をとったらいいの？

大きな地震が発生して電話線や電線が切れると、電話が使えなくなります。電話が使えなくなると、どこへも連絡がとれないと思われがちですが、無線ならば災害時でも連絡をとることができます。ご近所や同じ町内で無線機を持っている人達を事前に把握しておきましょう。

地域防災無線が整備されている市町村では、自主防災会長のお宅や避難地となる小中学校に無線機が配備されている場合があります。また、消防団の分団長や副分団長のお宅に消防無線が配備されていることもあります。自主防災組織の中にはトランシーバーを配備して情報収集・伝達に使っているところもあります。近くにアマチュア無線の愛好者がいれば、その方の協力を得て交信をお願いすることもできます。

いずれの場合にも、普段からどこに無線機が配備されているのかを確認しておけば、いざというときに役立ちます。



ここがポイント

アマチュア無線愛好団体や隣接する自主防災組織にも訓練に参加してもらいましょう。

地域内の交信状況が確認できるように訓練を計画しましょう。

無線機の操作ができる人の名簿を作っておくと便利です。

道路が壊れて車が使えない！ どうすれば情報収集できるの？

阪神・淡路大震災では、住宅地の狭い道路はもちろん、幅員8m程度の道路でも、両側の住宅が倒壊すると自動車の通行ができなくなりました。

阪神・淡路大震災のような大規模災害時には個人が勝手に自動車を使ってはいけません。自宅周辺の状況を確認する場合には、自転車の使用をお勧めします。

自転車ならば、自動車が通れないような狭い場所でも通ることができますし、多少の段差が生じていても手で持ち上げて乗り越えることができます。

オフロード用のオートバイやマウンテンバイクがあれば最高ですが、お宅にある自転車を使えば、徒歩で廻るよりかなり効率的に自宅周辺の被害状況を把握することができます。

近くにオートバイの愛好者がいれば、その方の協力を得て被害状況の把握をお願いすることもできます。



ここがポイント

バイク愛好団体、隣接する自主防災組織にも訓練に参加をしてもらいましょう。

地域内を廻るのにどの程度時間がかかるか、事前に確認しておきましょう。

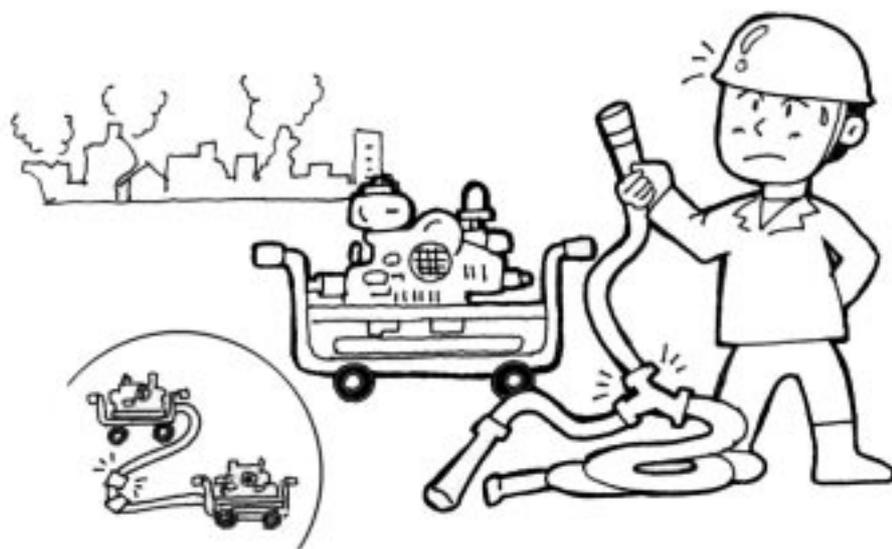
自主防災地図は必ず作成し、内容の点検もしておきましょう。

同時に2カ所から火災発生！ どうしたらいいの？

地震による火災は、同時に多くの場所から出火する場合があります。何か所からも上がる火の手を見ると、冷静な判断ができなくなってしまいますが、それぞれの出火点を確認し、延焼拡大の危険度が高い出火点から優先して消火にあたります。

また、初期消火を確実にするためには、2方向以上から放水する必要があります。何台もの可搬式消防ポンプ（持ち運びができる小型動力ポンプ）で初期消火にあたれば問題ありませんが、1台の可搬式消防ポンプしか使えない場合を想定して双口接手を備えておきましょう。

訓練の際には、消防団員の指導を受けることを心掛けましょう。



ここがポイント

ポンプ運用が可能な人数で実施します。

水利のある場所で実施しましょう。合わせて、自然水利の状況を確認しましょう。

初期消火は時間との戦いです。出火の際にすみやかな消火活動が行われるよう、可搬式消防ポンプなどの点検・整備は定期的に行いましょう。

家の中で火災発生！消火器以外に 使えるものはないの？

油火災でなければ風呂の汲み置き水や三角バケツに用意してある水で、火が小さいうちに消火しましょう。各家庭にある園芸用ホースも初期消火に使えます。園芸用ホースを使って水道の水が何メートル飛ぶのか、どの程度の火を消火できるのかをあらかじめ確認しておくようにしましょう。

天ぷら鍋の過熱で起こる火災の場合は、水を注ぐと油が飛び散って火事を大きくしてしまいます。

油火災に対応した消火器を備えていない場合には、どこの家にもあるシーツやバスタオルを水で濡らして固く絞り、大きく広げて天ぷら鍋をすき間のないように上から覆ってしまいましょう。濡れたシーツやバスタオルで炎と空気を遮断し（窒息させ）て、火を消し止めることができます。

危険を伴う行動なので、消防署員や消防団員の協力を得て正しい消火方法を習得しましょう。



ここがポイント

消防関係者などの専門家に参加してもらい、指導を受けましょう。
この他にも家庭内に活用できるものはないか、考えてみましょう。

近所で火災発生！どうやって消せばいいの？

近所で火災が発生した場合には、近くの消防署に119番通報して消火の要請をするとともに、近所の人達に呼びかけて、皆で協力して初期消火に努めましょう。

自主防災組織や町内会には可搬式消防ポンプが配備されています。ところによっては、消火栓を使用できるようにホースと筒先が配備されています。これらを使って、防火水槽、耐震性貯水槽のほか、自然水利（川や池、プールの水）などを利用して素早く消火すれば、近所で発生した火災を早い段階で消し止めることができます。

ポンプは機械ですから、日ごろから点検や整備、操作訓練を十分にすることが必要です。月に1度はエンジンをかけ、実際に放水訓練をやっておきましょう。



ここがポイント

消防関係者などの専門家に参加してもらい、指導を受けましょう。

水利のある場所で実施しましょう。合わせて、自然水利の状況を確認しましょう。

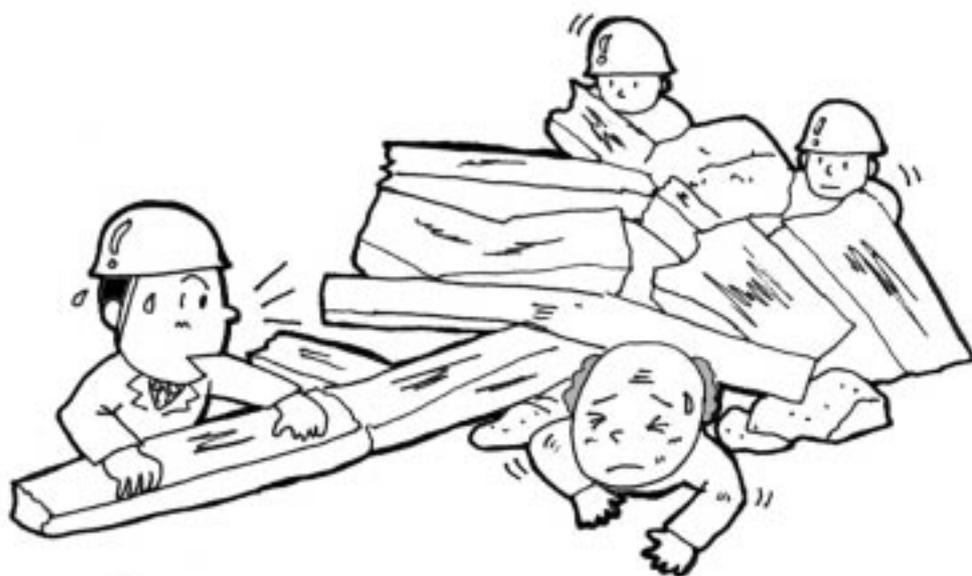
出火の際にすみやかな消火活動が行えるよう、可搬式消防ポンプなどの点検・整備は定期的に行いましょう。

倒壊家屋から生き埋めになっている人を助けるには？

倒壊した木造家屋の中に生き埋めになっている人を発見したら、近所の人達と協力して助け出しましょう。

まず、生き埋めになっている人に皆で声をかけ、安心感を与えるようにします。太い木材（太さ10cm程度）やバールをテコにして倒壊した壁や柱を持ち上げ、生き埋めになっている人を助け出せる隙間を作ります。自家用車に備え付けられているパンタグラフ型のジャッキを使えば、小人数でも壁や柱を持ち上げて助け出せる隙間を作ることができます。

実際に訓練を行う場合は、消防署員や消防団員の指導を受けることが求められます。また、ジャッキ等の資機材や工具類については、緊急時に数が不足することを想定して、近くの事業所の協力を得て借用をお願いしてみましょう。



ここがポイント

消防関係者などの専門家に参加してもらい、指導を受けましょう。

人材台帳を作成し、救出活動に活用できる資格・技能を持った人の有無を確認しておきましょう。また、必要な資機材の点検・整備を定期的に行いましょう。